

石心会の理念を検証する!

患者主体の
医療

地域に密着した
医療

医学的根拠に基づく
高度な医療

我々の存在意義は何か? 我々のミッションは何か?

石心会グループ代表 石井 暎禧



【我々の存在意義】

今日の日本の医療機関は総体的に見ると数に於いては淘汰・縮小の方向にあります。つまり、存在意義の曖昧なもの(国民の健康への貢献度の低い医療機関)は最終的には経済的に成り立たなくなって消滅せざるを得ません。経済的側面だけで無くそのような医療機関で働く職員は誇りを持つことが出来ず、辞めていってしまい、成り立たなくなってしまいます。

我々の存在意義とは何か?それは、現在一流の医療と国民に理解されている大学病院の医療が実は研究・開発や医療の人材育成という**未来の医療**を目的としているため**現在の患者本位**にならない宿命を持っているのに対し、われわれの医療は目の前にいる地域の患者のための医療を行うところにあります。言い換えればわれわれの医療の存在意義は今を生きる生活者のために**患者本位(patients first)の医療**を行うところにあるのです。

【患者本位の医療とはなにか?】

① 患者主体の医療

石心会の医療理念の最初に患者主体の医療を唱っています。患者本位の医療の第一歩は患者主体の医療です。

私が考える患者主体の医療とは、患者が必要とし、患者が望む医療を行うことです。

たとえば、患者が急患で来院したとき急患かどうかは患者本人や家族の判断に従うべきで医療者側が決めてはなりません。また、患者の訴えに良く耳を傾け、納得ずくの医療を行わなくてはなりません。

次ページへつづく→

② 地域に密着した医療

どのメディアのアンケートを見ても患者が病院を選ぶ理由の一番は住まいの近くにあることです。そのため、病院に来院する患者の7割は半径5km以内だと言われています。

地方と都会では多少異なりますがおおむねどの病院にも(東大病院でさえも)当てはまります。われわれの行う医療は、この地域の患者がもっとも困っている疾患の治療を行うことが基本となります。もちろんそれ以外の医療を行ってはいけないと言う意味ではありません。

今日の地域社会を特徴づけるものはなんと言っても高齢社会です。そうした観点からわれわれの医療の基本は成人病への対処となりますが、実は地域の人々(とりわけ高齢者)がもっとも不安に思っているのは成人病の急性増悪など急病への対処なのだと言うことを我々医療者は肝に銘じておくべきです。だから、住まいの近くにあるという事が常に患者の病院の選考理由の一番になっているのです。

その意味で、救急患者はいかなる理由があろうと断ってはなりません。

急病の患者をいかなる理由があろうと断ることなく受け入れ、診療すること。

これは、地域病院(非大学病院という意味で)の第一のミッションであり、地域の患者の信頼を得るための一丁目一番地なのです。

その事は、自分や、家族の病気を想定してみればすぐに分かることです。

③ 医学的根拠に基づく高度な医療

地域住民の信頼を得るためには一流の医療でなければなりません。

今日の患者はマスコミの報道やWEBの発達の影響により膨大な医療の知識を持っていますがその傾向は国民皆保険の始まった昭和36年(1961年)に端を発しており、患者の医療機関に対する要求水準は日々どんどん高まって来ています。

それは言い換えれば、患者の生活圏に一流の医療を欲しいと言う声なのです。その思いに応えるため40数年前私は大学を辞め、地域に病院の開設をしようと考えました。

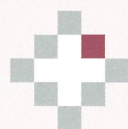
しかし、一流の腕や知識を持っていてもそれを鼻にかけて患者主体の医療をないがしろにするならそれは本末転倒というもので、自らの墓穴を掘っているようなものだと言うべきです。

今日の患者が期待するのは優しくて頼りになる一流の病院であり、又、その期待に応えることこそが我々の誇りの源泉となるのです。

石心会グループは病院、診療所、在宅訪問ケア、特養、老健の複合体です。

それぞれの事業所に於いて患者本位、利用者本位、顧客本位を貫き、

優しくて頼りになる一流のチームを目指して邁進しましょう。



川崎クリニック 事業所間連携で外来患者増へ

2013年3月に移転開院し、外来患者数が徐々に増えてきています。

患者増施策の一環として、川崎幸クリニックと共同して患者さんの誘導や、かわさき健康塾(川崎幸病院主催)の積極的な開催をしています。

川崎幸クリニックでは、川崎クリニックへ誘導するためのウォーキングマップの配布、外来診療表チラシの配布、大型ポスターの設置などを実施しています。逆に、保健指導は行っていないので、川崎クリニックから

川崎幸クリニックを紹介しています。

また、かわさき健康塾では、外来フロアにある会議室を積極的に会場として利用しています。



10月25日には『TBSラジオ大沢悠里のゆうゆうワイド／毒蝮三太夫のミュージックプレゼント』と生放送のタイアップ。穴戸院長と毒蝮氏の息の合った掛け合いが行われました。

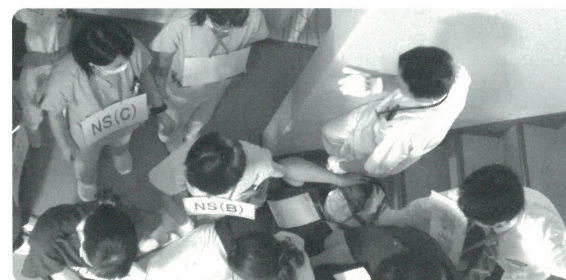
川崎地区の外来は、共通の診察券であることと電子カルテが共通であることが特徴です。外来患者さんに安心して通院いただけるように、今後も連携を強化していきます。



さいわい鹿島田クリニック 透析室避難訓練実施

2013年11月6日、今回で2度目の患者さん参加型の透析室避難訓練を実施しました。前回は見学のみでしたが、今回は通院されている透析患者さんに有志を募り、8名のうち3名は患者さん役として、スタッフとともに

避難訓練に参加いただきました。終了後、参加された患者さんから頂いた生の声とアンケート結果から、『訓練というのに布団をかぶり、電気が消えたとたんにパニックでいる自分にびっくりしました。自分の課題です』



『訓練ではスムーズに避難できたが、実際は100人近い患者さんの中には自力で避難出来ない方も多く、パニック状態になることが想像でき、自分自身がしっかりしなくてはと感じた。もっと多くの人に関心を持って参加してほしい』

等の率直な感想がありました。

自分の身の安全を確保した後の初動として、まずはパニック防止のため、『大きな声でわかりやすく声かけをする』ことが重要であると改めて感じました。また、『元気な患者が出来る範囲で非難の手伝いが出来ればと思った』と心強い声もありました。少数の方からのご意見・感想ではありますが、患者さん視点での災害時の思いが強く感じられ、身の引き締まる思いがする訓練となりました。



アルファメディック・クリニック 受診者の通過管理・誘導支援システムが好評

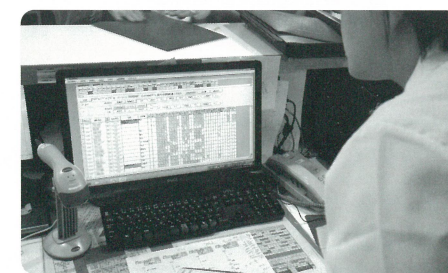
2013年4月に導入した受診者の通過管理・誘導支援のシステムが受診者の方から好評です。受診者の待ち時間のストレスが、このシステムを導入することで大幅に改善されました。

健康診断の際に受診者一人一人について、どの検査項目が終わっているのかをモニター上で確認できるので、受診漏れを防ぐことができるほか、すいている検査項目を自動

で探して誘導し、モニター上でも一目でわかるので、次の検査への案内がスムーズになりました。また、面談室の前にあるPC画面には、待ち人数が表示されるようになったので、自分がどのくらいの待つかが一目でわかるようにもなりました。

これまで受診者からは、待ち時間が長いという意見が多かったのですが、このシステムを導入した事により待ち時間のストレス

を減らすことに成功しており、受診者の方からは大変好評をいただいております。



OPIC
4

川崎健診クリニック 移転後の施設健診が好調

川崎健診クリニックの2013年4月～10月の実績は、前年同時期に比べ大変好調でした。

その要因としては、①受診者の大幅増加、②単価のアップ、③諸経費削減があげられ、改善額は43,702千円にもなりました。生活習慣病健診・協会生活習慣病健診・定期健診のいずれも大幅に増加しており、合計で3,634人の増加となりました。

受診者を増やすための具体的な活動としては、延べ3,000社以上の企業への訪問、見込み先への継続訪問の徹底、予約センター・健診受付・健診の各現場が絶えず改善を行っていること、川崎のショッピングモール・アゼリアに広告掲

出とチラシを設置する広報活動などがあげられます。

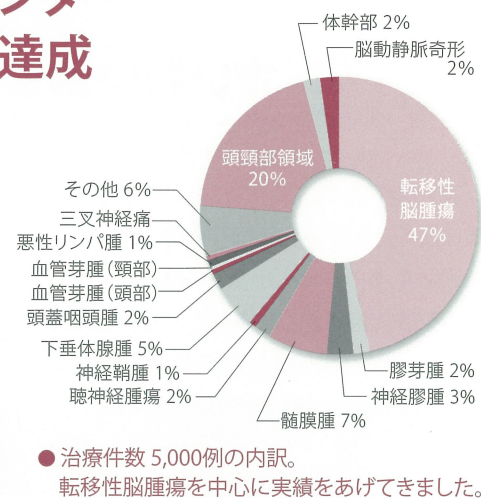
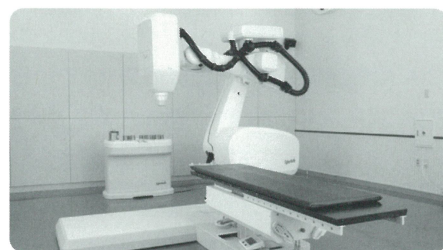
引き続き、営業活動、現場努力、広報活動に力を入れて、顧客獲得に努めます。

OPIC
5

新緑脳神経外科 サイバーナイフセンター 2013年10月に治療実績5,000件を達成

2005年5月、関東では最初のサイバーナイフが新緑脳神経外科に設置され、転移性脳腫瘍の患者さんをはじめ、様々な疾患に対してサイバーナイフ治療が実施されてきました。特に近年は頭部の他、体幹部分の腫瘍に対しても治療実績を重ね、2013年10月、開設以来の治療実績が5,000件に達しました。新緑脳神経外科ではサイバーナイフセンターのみならず、地域医療機関と

しての役割もさらに充実し、世界レベルの放射線治療と最高レベルのホスピタリティを提供をしています。



OPIC
6

在宅部門 6事業所合同で「地域包括ケアシステム」についての研修を開催

在宅事業部では6事業所合同研修を7月と10月に実施しました。今年度のテーマは「地域包括ケアシステム」です。「地域包括ケアシステム」とは、住まいの確保を基本とした上で、生活の安全・安心・健康を守るために、医療や介護、予防を含めた生活支援サービスを日常の場で提供できるように地域の体制を言います。このシステムの一翼を担うことを目指して勉強を続けている各所長達が中心となった講義と、グループワークを行いました。

第1弾は7月24日に実施し、超高齢社会・多死時代の到来を見据え、自分達が活動する地域が安心して住み続けられるようにす

るためにはどうしたらいいのかを危機感を持って考える事ができました。

第2弾の今回は、「地域包括ケアシステム」における5つの構成要素と自助・互助・共助・公助の意味を新たなイメージ図をもとに理解を深める」ことを目標に実施しました。看護師、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、福祉用具専門相談員、事務などの多職種が混ざってのグループワークでは、それぞれの立場の意見や価値観、仕事上の困りごとなどのディスカッションができました。

自分や家族がどのような生活

をしたいか、どのように準備していくかという「自らの選択と心構え」はとても大切です。これからの超高齢社会を安心して迎えるために、地域の医療や介護を支える一員として皆様と一緒に考えていきたいとおもっています。



15th
Anniversary

川崎幸クリニック 開院15周年記念イベント開催

今年で開設15周年を迎えた川崎幸クリニックは1998年9月、川崎幸病院の外来部門を分離独立して開設されました。「高度で良質な医療を身近なものとして提供する」を基本理念に、22の診療科、夕方診療、日曜診療、訪問診療もおこなう総合的な診療機能を持つクリニックです。

開院15周年記念イベントとして、11月30日(土)に杉山院長の講演と、映画『わたし』の人生(みち)～我が命のタンゴ』の鑑賞会を開催しました。この映画は、川崎幸病院・川崎幸クリニック併せて20年以上勤務している精神科医・和田秀樹先生の監督作品です。本作

は、実際のエピソードを基に描かれ、昨年夏に一般公開されました。また、第11回モナコ国際映画祭の正式招待作品に決定しています。当日は地域の方々をはじめ600名以上の方が来場されました。

『わたし』の人生
～我が命のタンゴ～

8/11(土)より、シネスイッチ銀座他にて全国公開
配給:ファントム・フィルム © 2012「わたし」の人生 製作委員会



10th
Anniversary

さやま総合クリニック創立10周年記念 健康フェスタ開催

さやま総合クリニックでは創設10周年を記念して11月17日(日)、地域の皆さんへの日頃の感謝をこめた健康フェスタを開催しました。

本物の器具を使って手術体験ができる「ブラック・ジャックセミナー」では小学5・6年生の子供達が、埼玉石心会病院の医師の指導のもと、外科手術の切開や縫合、内視鏡操作などを体験。未来の名医気分を味わいました。

3階ピアノホールでは、ヘルシーコンサートの特別版を開催。第1部が元宝塚歌劇団・飛翔ひかるさん率いるミュージカル、第2部は沖縄出身シンガーソングライターユニット「アキダス」、第3部は実力派ピアニスト

「赤木舞 & 稲田俊介」と、バラエティに飛んだ3部構成でした。

その他、「石心会健康塾」1周年記念の掲示や院内見学ツアー、当院オリジナルの透析食であるミートローフの試食も。これはレシピ本「埼玉石心会病院の入院させない健康献立」に掲載したメニューの中でも一番人気のレシピです。参加者は興味津々の様子で、各イベントに参加していました。



ユニット「アキダス」



◀ 気持ちはドクター、「ブラック・ジャックセミナー」



▲ 健康特設コーナーでは、ミートローフの試食も

神奈川地区：かわさき健康塾

拡大版 かわさき健康塾 かわさき幸・血管フォーラム開催

11月16日、川崎幸病院はかわさき健康塾の拡大版として、“かわさき幸・血管フォーラム”を開催。255名の市民が参加しました。同フォーラムは「動脈硬化と心臓病・脳卒中～最新治療と予防について～」をテーマに、座長の笹栗志朗川崎幸病院院長をはじめ、心臓病センター・脳血管センター・川崎大動脈センター・放射線IVR科・内科の各医師が講演を行いました。

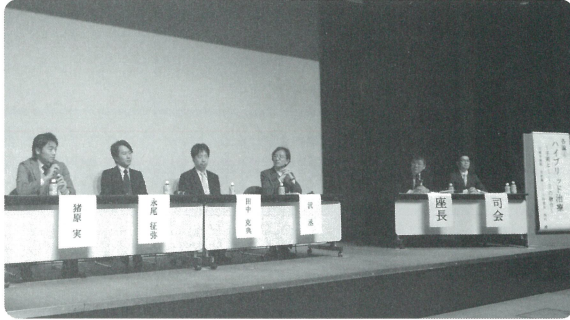
動脈硬化疾患は全身の血管病そのものなので、動脈硬化症による臓器疾患が見つかった場合には、他の臓器にも疾患があることが少なくありません。

川崎幸病院では、このような

※同フォーラムは11月17日(日)の神奈川新聞に取材記事として掲載されました。

全身疾患である血管病に対して、総合的な医療を提供していくことを、このフォーラムを通じて地域住民に明確に打ち出しました。参加者からは内容がわかりやすかったという声も多く聞かれ、関心の高さが伺えました。

血管病についての講座については、今後も多く行っていく予定です。



【プログラム】

しのびよる動脈硬化
～狭心症と心筋梗塞について～
心臓病センター／循環器科医長 猪原実医師

動脈硬化と脳卒中
～脳卒中の先端治療～
脳血管センター／脳神経外科医長 永尾征弥医師

急性大動脈解離の治療について
川崎大動脈センター/
心臓血管外科医 田中克典医師

ハイブリッド治療
～手術とIVRの融合～
放射線IVR科部長／西村潤一医師

動脈硬化はなぜおこる？
副院長／内科部長／沢丞医師



埼玉地区：石心会健康塾

受講者数のべ2万人達成「石心会健康塾」

昨年11月よりスタートした埼玉地区の「石心会健康塾」は、11月7日で、のべ2万人を達成しました。1周年となる11月1日の時点では、講座数518、受講者数19,792人で、2万人目前となっていました。最多講演は、大川清管理栄養士の22回です。

「石心会健康塾」は、1年間1講座も中止

することなく開催。地域住民の健康知識を高めるため、講師と参加者の対話を重視した小規模な勉強会として行ってきました。

石心会の医師、職員だけでなく、周辺地域の開業医、連携病院医師、看護師らも講師として参加。住民への知識啓発だけでなく、地域の医療連携を促進することも出来ました。

市民公開講座が人気、毎回200人超が参加

埼玉地区では、1～2ヶ月に1度のペースで無料の市民公開講座を開いており、毎回200名超の市民が参加、好評を博しています。

9月14日の「眼科市民公開講座 白内障の診断・治療」には223名が参加。公立昭和病院の鷺尾紀章医師を座長に迎え、埼玉石心会病院の高木重徳・眼科部長が登壇しました。

11月17日には「慢性腎臓病市民セミナー」を開催、216名の市民が来場しました。埼玉石心会病院の池田直史・腎臓内科部長の司会のもと、埼玉医科大学腎臓内科の鈴木洋



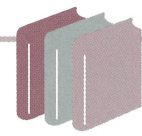
眼科市民公開講座

看護師による無料健康相談は連日開催。狭山、入間市以外にも希望があれば「出張講演」も行っています。また狭山ケーブルテレビ・入間ケーブルテレビで連日放映されており、埼玉地区の地域貢献事業の核となっています。今後はさらに開催エリアを拡大していくことを目指しています。

院の入院させない健康献立」（主婦の友社）の即売会も行われ、多数の参加者が購入していました。



慢性腎臓病市民セミナー



読書のすすめ

川崎幸病院 大動脈センター長 山本 晋

「日本の対外戦争」

著者：豊田 泰

世の中の情勢を見極め、個人としての正しい判断を行うにはどうすればよいか——。自称ジャーナリストや評論家、はたまた学者や政治家の書いた”啓蒙書”が良く売れているようであるが、あんなもの、クソの役にも立ちほしない(と思う)。薄っぺらな教養から吐き出された私見など、百害である。

豊田先生に始めてお会いしたのは20数年前、新宿のデパートで催された豊田先生の個展会場だった。ガラス板の裏に油彩で施す独特の画風は、日本山岳画協会会員でもある先生独自のものであった。折々に個展の案内状が届いた。

ところが数年前に いただいた案内状には「また、本を書きました。よろしければご覧下さい」という一行が記されていた。先の大戦を「幸運にもくぐりぬけた者として」「何か書き残しておく義務がある」と始められた執筆は、国家、民族にまでおよぶ。

これは歴史小説ではない。コツコツと積み上げた膨大な資料と「俯瞰(ふかん)する視点」、そしてその「臨場感」に圧倒された。幕末オタクでなくとも存分に楽しめる。歴史マンガより読みやすい。人間が学べるのは過去の失敗からであると改めて思った。間違いなく隠れた名著である。

* * *

そうそう、豊田先生の本職は作家でもなければ画家でもない。都立広尾病院の泌尿器科部長として、長年診療に携わってこられた本物の臨床医である。

註：現在四巻までが刊行されているが、第二巻の「幕末(開国と攘夷)」、第三巻の「明治(日清・日露戦争)」が特にお勧めである。



川崎幸病院院長に笹栗志朗医師が就任しました



川崎幸病院 院長
笹栗 志朗

11月1日付けで石井理事長より引継ぎ、笹栗志朗医師が川崎幸病院院長に就任しました。

笹栗院長は就任に際し、次のように語っています。

「我々がこれから進むべき道は、これまで40年間に築かれた堅固な歴史からさらに「品と質を担保した急性期医療」へ向かうことだと考えています。この目標の達成には、職員一人ひとりが自らの価値を高めていく意識改革が必要です。各個人が医療人として成長し、さらに病院全体が発展していくものと思います。」

【略歴】

1978年 東京医科歯科大学医学部卒業
1978年 三井記念病院外科
1983年 ハーバード大学外科
1984年 東京医科歯科大学
1989年 順天堂大学胸部外科
1999年 高知医科大学第二外科教授
2012年 川崎幸病院 副院長に就任
2013年 川崎幸病院 院長に就任

「海燕」では、より多くの事業所の活動・意見を伝えていきたいと考えております。
掲載記事の情報・ご意見・ご質問など、お待ちしております。

●連絡先：石心会本部 事務局 i-tsujita@sekishinkai.or.jp(辻田) yoshie-noguchi@saitama-sekishinkai.org(野口)

編集後記

11月8日、川崎幸病院講義室に於いて米国ハワイ州最古(150年の歴史)で最大の医療財団クイーンズメディカルセンター幹部による講演会が行われたがそこで2つのことに感銘を受けた。その一つは、その医療実践にPATIENTS FIRST(患者本位)を正面に掲げ、それが躍進のパワーとなっていること。二つ目は、理念から年度事業計画までを記したPLAYBOOKと称する冊子を全職員に配賦し、財団の考えを徹底していることである。 I.T.